



今月の題字
ともや
佐々木 知 哉 君
(荒川小4年)

町のわだい

織笠 齊藤キシノさんが100歳 長寿の秘けつはゲートボール

織笠の齊藤キシノさん（明治41年生まれ）が3月28日で満100歳の誕生日を迎えました。同日沼崎喜一町長が自宅を訪問し、長寿を祝福。「100歳おめでとうございます。これからも元気で長生きしてくださいね」とあいさつし、長寿祝い金を手渡しました。施設のショートステイを利用しながら元気に過ごす齊藤さん。「長生きの秘けつは友人と94歳までゲートボールで足腰を鍛えたおかげです」と笑顔で話していました。



山田町土地改良区の初総会 事業計画など14議案を議決

山田町土地改良区（斉藤國三郎理事長・組合員216人）の第1回通常総会が3月30日、荒川構造改善センターを会場に行われました。会場には61人が出席し、総会では事業計画や維持管理費予算など14議案が原案どおり可決され、暫定で就任していた斉藤理事長が再任されました。斉藤理事長は「安全で安心な農産物を消費者に供給できる体制として、農地を有効活用できる仕組みづくりを丸となって取り組んでいきたい」とあいさつしました。同改良区は、荒川と豊間根地区の農地や水路を共同で管理する団体で、用水路の整備をはじめ農地の利用調整や周辺環境整備などを主な活動内容としています。



ブックスタート事業始まる 乳幼児へ絵本をプレゼント

4月から始まったブックスタート事業により、町から乳幼児に絵本がプレゼントされました。これは、絵本の読み聞かせを通じて、親子の絆を深めてもらうため実施されるものです。4月24日、町保健センターに3カ月健診で訪れた12組の親子に対し、沼崎喜一町長が「お子さんが本を好きになる機会を作ってあげてください」とあいさつし、絵本1冊とバッグを手渡しました。続いてボランティアサークル「おはなし広場」の皆さんによる実演や、読み聞かせの方法についての指導が行われ、参加した人たちは絵本を通じた親子の触れ合いの大切さを学んでいました。

盛岡市内一周継走大会 山田中女子が8年ぶりの栄冠

第63回盛岡市内一周継走大会で、山田中女子が8年ぶり2度目の優勝を果たしました。大会は4月20日に盛岡市内で開かれ、中学女子の部には県内115チームが出場。1走で5位に付けた山田中は、2走で2位に順位を上げると、最終4走で逆転し、トップでゴールしました。アンカーを務めた川村絵理主将は、「みんなが頑張って差を縮めてくれたおかげです。秋の県駅伝でも優勝し、全国大会に出場します」と強い決意で話してくれました。
【出場選手】写真左から西舘央恵（2年）、田畑有望（3年）、佐々木麗華（2年）、川村絵理（3年）《敬称略》



カキ入りクラムチャウダーを開発 県の支援事業で新商品が完成

4月27日、(株)川石水産がカキを使った新商品「岩手山田産かき入りクラムチャウダー」の完成発表会を開催しました。これは、県が実施する県北・沿岸地域起業化支援事業を受けて開発されたもので、製作には町内のレストラン「ろか〜れ・あ〜しゃ」を営む駒場利行さん(写真左)が協力。昨年12月から県内での試食会とアンケート調査、研究を重ねて製品化となりました。代表取締役の川石睦さんは「この商品を通して消費者の皆さんに、カキにもいろいろな料理法があることを広めていきたい」と話していました。本商品は千葉県や盛岡市などに出荷されるほか、町内では道の駅やまだで販売される予定です。

「オランダ料理を味わう会」開催 友の会活動の活発化を図る

4月2日、日蘭交流友の会（伊藤敏会長・会員91人）の有志5人が主催する「オランダ料理を味わう会」が町中央コミュニティセンターを会場に開かれました。これは、町海外研修派遣事業でオランダに行った人たちが当時の思いを風化させないようにと開催したもので、会には沼崎喜一町長や伊藤会長ら5人を招待。ピラフ風の豆ご飯やソーセージ煮込みなど、オランダの家庭料理5品が出されました。参加した皆さんは懐かしいオランダの料理を味わいながら、海外研修の思い出話を花を咲かせていました。主催した鈴木協子さん（山田・63）は「今後は料理講習会の開催を計画しており、友の会の活動をもっと盛んにしていきたい」と話していました。



懐かしい味に舌鼓を打つ参加者（上写真）／当日振る舞われたオランダ料理